

6. 北陸（地域別調査機関：（財）北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	家電量販店（店 長）	販売量の動き	・新年度から家電エコポイント対象外となるテレビの 駆け込み需要があり、大幅にテレビの販売量が増え た。
		通信会社（営業 担当）	来客数の動き	・新生活がスタートする時期とあって来客数は増加し ている。節約志向が強くなっていることもあって、例 年と比べると少ないが、それでもここ最近の中では一 番来客数の多い月となった。
		通信会社（営業 担当）	販売量の動き	・他社からの乗換え客への割引額の増額、新規契約の 割引販売、客の需要増などが重なり、当月の携帯電話 販売台数は、今年度最高となった。
	やや良く なっている	一般小売店〔精 肉〕（店長）	販売量の動き	・内祝い需要などの要因もあって購買動向はやや活発 になっており、2～3か月前よりやや持ち直してい る。
		一般小売店〔鮮 魚〕（従業員）	販売量の動き	・前月に続いて営業担当の売上が前年比増加してい る。前年実績を超える担当者数も増えた。
		一般小売店〔書 籍〕（従業員）	来客数の動き	・ここ数か月、来客数は伸び続けている。
		百貨店（売場担 当）	来客数の動き	・催事関連の客の入込が多かった。
		コンビニ（経営 者）	販売量の動き	・売上が前年比80%台でしばらく続けていたが、当月 は同90%台までに回復してきた。
		コンビニ（店 長）	販売量の動き	・売上は好ましくない状況ではあるが、2～3月にか け、弁当やおにぎりなどに動きが出始めてきた。売上 は徐々にではあるが、回復傾向の兆しが見られる。
		コンビニ（店舗 管理）	来客数の動き	・前年比の推移をみると改善傾向にある。
		家電量販店（店 長）	販売量の動き	・家電エコポイントの対象商品の変更が4月より実施 されるため、対象機種数の減少が大きいテレビで、駆け 込み需要が起きている。
		観光型旅館（ス タッフ）	来客数の動き	・総売上は前年比106%、宿泊人数は同116%、宿泊単 価は同94.3%と宿泊人数の増加によって、総売上が久 しぶりに前年を上回った。人数増加は大きな団体が 入ったことが主な原因である。
		通信会社（職 員）	お客様の様子	・中旬以降、契約の追加・変更に関する問い合わせが 増加傾向にある。
通信会社（社 員）	販売量の動き	・春の携帯電話商戦は、季節的要因を考えてもやや好 調であった。		
住宅販売会社 （経営者）	来客数の動き	・問い合わせや来社数が増加している。		
住宅販売会社 （従業員）	販売量の動き	・消費者の活動が活発化し、内見会などに訪れる客も 増えた。また、2月以降の受注件数も前年を上回って いる。		
変わらない	商店街（代表 者）	お客様の様子	・安価なものは相変わらず売れている。また、少しお しゃれな良いものが欲しいという女性の願望が、購買 動向に表れており、目新しいものは購買につながっ ているようだ。	
	商店街（代表 者）	来客数の動き	・天候の良い日はまだ人出があるが、天候の悪い日は 極端に人出が減少している。客の話によれば「巣ごも り」派が増えている。	
	百貨店（営業担 当）	お客様の様子	・ファッション性の高い商品の動きはまだ鈍い状況で ある。一方、食料品、化粧品、靴下、ストッキング、 肌着などデイリー性の高い商品は、良い物を購入する 動き、まとめ買いをする動きが顕著になり、売上が前 年実績を超える兆しが出てきた。全体では、まだ厳し いものの、動きのよい商材も出始めている。	
	百貨店（営業担 当）	販売量の動き	・来客数は徐々に増えているものの、買物の様子は非 常に慎重になっており、回復の兆しが見られず、厳し い状況が続いている。	
	スーパー（店 長）	お客様の様子	・客の生活防衛志向は依然として変わらない。野菜は 1個単位、肉魚は少量パックの購入が目立つなど不 必要な量は買わない。また、特売だからといって多く購 入するのではなく、必要なものを必要なときに必要な だけ購入している。	

スーパー（店長）	お客様の様子	・客の節約志向で単価の低下が引き続き見られるが、これ以上悪くならないような気配を感じる。しかし、競争激化のなかで、厳しい状況が続くことには変わりはない。
スーパー（店長）	お客様の様子	・生活防衛型の消費動向は変わらない。本来景気に影響を受けにくい新生活、新学期需要などのシーズン商材やオケージョン商材でも最低限度の買物動向である。販売点数の減少は価格に対して敏感に反応した結果である。
衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・暖かくなるべき3月に雪が降り、売上にブレーキがかかったが、提案性の高い商品に興味を示す客が出てきた。
衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・来客数はあるものの、買物に対しては非常に厳しい状況が続いている。
衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・来客数からみると変化はないものの、心なしか明るさが見えてきたように感じる。
衣料品専門店（総括）	単価の動き	・安価なのは当然であり、しかも必要なものしか購入しない。この傾向は変わっていない。
家電量販店（経営者）	販売量の動き	・薄型テレビが売れているがこれを除くと、そのほかの商品は非常に悪かった前年並みであり大きな変化はない。
乗用車販売店（経営者）	お客様の様子	・今年に入って売上増加の兆しが見えつつあったが、当月は最需要期らしくない動きとなった。販売価格は競合が激しく、収益を確保できない状況である。
乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・新型車が発売され来客数は増加したが、販売総量はほとんど増えない状況である。
乗用車販売店（経理担当）	販売量の動き	・エコカー減税、エコカー補助金などの追い風で前年比ではかなりの販売増になっているが、前々年の業況までには至っていない。
乗用車販売店（経理担当）	販売量の動き	・車の販売量は、期末要因もあって前年比約3割増加しているものの、受注量は減少傾向にある。
その他専門店 [ガソリンスタンド]（経営者）	販売量の動き	・石油の需要減に歯止めがかかり、やや増加傾向に転じたが、商社を中心とする大手の安値売込みが目立ち、中小企業の経営を圧迫している。
その他専門店 [酒]（経営者）	販売量の動き	・商品が動かない状況が長期間続いており、景況感最低である。回復の兆しが一日でも早く現れて欲しい。
高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・1年で最も季節指数が高い時期だが、個人では卒業や入学祝いなど、官庁法人関係は送別会と例年通りの集客で推移した。
一般レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・2月に落ち込んだ客数は、3月上旬頃から少しずつ戻り始めているが、春休みに入ってから前年を超えるまでの回復には至っていない。
スナック（経営者）	来客数の動き	・客の特殊事情により、1、2月の売上は最悪だったが、当月の売上は前年の85%にまで回復してきた。一般客は「大変苦しくなっている」との声が多い一方、経営者層では「戻りつつある」や逆に「仕事がなく将来性もない」との声が聞かれ、二分化している。
観光型旅館（経営者）	販売量の動き	・宿泊客数は前年と変わらないが、1人当たりの消費単価が1000円程度低下している。
都市型ホテル（スタッフ）	単価の動き	・送別会などの利用でレストランの客単価が上がり始め、宴会利用も持ち直し感が出始めている。
旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・上海万博を中心とした需要には活気が出てきたが、その他の見積案件はさほど変化が見られない。
タクシー運転手	販売量の動き	・人事異動などによる送迎会などが例年よりは少なかったと感じている。
通信会社（役員）	販売量の動き	・前年同様、期末キャンペーンを展開しているが、家計収入の減収や大手通信会社との競合などにより新規申込件数は前年比7割程度で推移している。
競輪場（職員）	販売量の動き	・購買量に大きな変化はなかった。
美容室（経営者）	来客数の動き	・当月の売上は久しぶりに前年を上回っているが、前月の売上減をカバーするほどの勢いはなく、翌月の売上に不安が残る。
住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・展示場来場者数は前年比若干増えているものの、成約に至るまで時間を要し、価格交渉も厳しいため、販売量が伸びない状況である。
住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・12月に住宅版エコポイントが発表されたが、新築部門に関しては客の様子が以前とあまり変わらない。

やや悪くなっている	百貨店（売場主任）	お客様の様子	・徐々に企業の設備投資、人材への投資が増加しているものの、市場のモチベーションが上がるまでには至っていない。顧客も必要以外の支出を控えている状態から抜けきれていない。	
	スーパー（店長）	単価の動き	・来客数に変化はないが、客単価が低下しており、低価格商品を購入する傾向がみられる。	
	スーパー（店長）	お客様の様子	・自社カードの割引対象日に客が集中する傾向が出てきた。特に住宅関連の高額品、衣料品の高額品、食品全般に利用が多い。	
	スーパー（総務担当）	お客様の様子	・衣料品では天候不順のため春物の動きが悪い。また系列のホームセンターでは新生活関連商品の動きが例年より遅くなっており、消費者は家計を引き締めているようだ。	
	コンビニ（経営者）	販売量の動き	・常連客の来店が減少している。	
	自動車備品販売（従業員）	単価の動き	・買上数量はそれほど低下していないが、購入動向は低価格帯またはお買い得商品を選ぶ傾向となっている。特に必需品はよりその傾向が強い。	
	その他専門店〔医薬品〕（営業担当）	来客数の動き	・既存店の来客数が5%落ち込んでいる。	
	都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・宿泊、レストラン、宴会など各部門において売上は前年比減少している。	
	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・売上は前年比25%低下している。企業の業績不振を受け出張の見合わせなどが顕著に出ている。	
	住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・展示場来場者数の本格的な回復を期待していたものの、逆に減少となり環境が厳しくなった。1～3月の四半期でみても前年同期比悪化している。	
悪くなっている	一般小売店〔事務用品〕（営業担当）	お客様の様子	・年度末には、予算を使い切りたいとする民間法人の駆け込み需要が発生していたが、今年に限ってはそういった現象が見られない。	
	住関連専門店（店長）	お客様の様子	・相変わらず客の財布のひもは固く、よほど必要なものでないと買わなくなっている。	
	タクシー運転手	来客数の動き	・節約志向が依然強く、朝夕の通勤時間帯の利用は少ない。また、年度末や春休みのためタクシー利用は少なく売上が上がらない。	
	テーマパーク（職員）	来客数の動き	・厳しかった前年実績と比較しても、利用客数は7～8%の減少となった。一般団体客は微減で収まったものの、募集ツアー客が半減し、これまで堅調であった個人客が1割程度減少している。全体としては厳しい状況が続いている。	
企業動向関連	良くなっている	-	-	
	やや良くなっている	繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・スポーツ分野や自動車関連の受注に動きがあり、季節性も一部あるものの久々の受注増となった。しかし、デフレや消費低迷の影響が強い婦人ファッション関係では相変わらず厳しい状況が続いている。
		化学工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・工場からの報告では受注計画が増加傾向にある。
		一般機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・国内及び欧米をはじめとした海外からの引き合いが増えている。国内向けでは来店しての商談も増えており、設備投資が動き始めている。
		電気機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・3月末を迎え今まで慎重だった客の行動に変化が見られる。4月発売の新製品に対して動きが出ており、引き合いが多くなっている。
		通信業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・受注額がやや回復し、特に介護サービス及び医薬関係の案件が出ている。
		新聞販売店〔広告〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・2か月連続で売上が前年実績を上回るようになってきた。
		司法書士	取引先の様子	・製造業、小売業の取引先からは、最悪期を脱出し良くなってきているという声を聞く。
		税理士（所長）	取引先の様子	・製造業を中心に受注・生産量に持ち直しの傾向が見られる。円高で厳しいなか、価格面では低く抑えられている部分も見られるが、為替の安定もあろうまく対応している企業がいくつか見られる。
	変わらない	食料品製造業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・安価で内食向けの商材が引き続き堅調な動きをしているのに比べ、市販用、業務用ともに高額品については、動きが悪い状況が続いている。

		繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・相変わらず受注の小ロット化が目立っている。
		プラスチック製品製造業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・住宅市場に回復の見込みがなく、売上は横ばい状態が続いている。
		精密機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・取引先などの仕事量は依然として厳しい状況が続いている。一部、低価格商品の生産で、それなりの受注があるところもあるが、採算的に合うかどうかは疑問である。
		金融業（融資担当）	取引先の様子	・機械製造関係、半導体製造関係においては受注が戻って来る兆しが見られる。
		不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・取引先の話では、不動産取引がなかなか動き出さず、止まっている状況に変化はない。
	やや悪くなっている	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・前年12月末は年末工期の工事の残務整理、1月初めは3月工期の手持ち工事を手がけていたが、今月は年度末工事を完成させた後の仕事がなく、工事部門の職員に余剰感がある。
		輸送業（配車担当）	それ以外	・原油などの値上がりにより、燃料コストの上昇がみられ、利益が上がりにくくなってきた。
		輸送業（配車担当）	受注量や販売量の動き	・毎年3月期は物量が増える傾向にあるが、今年は例年ほど荷物が動かない。
	悪くなっている	建設業（総務担当）	それ以外	・工事発注量の減少が続いており、受注競争はし烈で、特に価格面ではエスカレートし、採算を度外視した異常な水準となっている。
雇用 関連	良くなっている	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・求人広告の出稿状況は前年比ほぼ100%となるまでに回復してきた。
	やや良くなっている	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・正社員の募集と比較すると、アルバイト・パートの募集が増加している。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・求人広告の出稿量は、まだ前年よりも下回っているが、下回り幅が前月、前々月よりも縮小し改善している。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・行政機関での年度替りの人材募集はやや発生しているものの、一般企業では景気の上向きが見込めないため、人材派遣業界の回復は見込めない状況である。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・相変わらず民間からの求人が少ないため、官公庁への人材派遣の落札価格は一層低下傾向にある。
		職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・窓口における事業主からの聴取や訪問に際し聴取した企業の景況感はあまり変わっていない。
		民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き	・製造業の求人は低迷したままで早期回復が見込めない。
		学校〔大学〕（就職担当）	採用者数の動き	・来春卒業予定者の就職内定率は、現在把握している状況では前年比3%程度低下している。
	やや悪くなっている	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は全体で前年比20.3%の減少となった。産業別では、医療福祉が同36%増加したものの、サービス業で同44%、建設業で同27.9%、情報通信業で同24%、製造業で同20%とそれぞれ減少した。一方、新規求職者数は同14.8%の減少となったが、有効求職者数は同5.3%増加した。
	悪くなっている	-	-	-